

# 高崎市地域福祉通信

## 第5回地域福祉市民会議の開催

8月30日（金）午後1時30分から高崎市役所第172会議室において、第5回地域福祉市民会議を開催し、32人の委員の方々にご出席いただきました。

当日は、アドバイザー講話後、グループワークを行い、アドバイザーに講評をいただきました。

## 第5回地域福祉市民会議の主な内容

### ●永田アドバイザーによる講話

- ・福祉文化は、「共助の木」を育てる土壌である。
- ・「福祉文化社会」とは、人間としての尊厳を持ち、安心して楽しく暮らせる「共生社会」と同義である。
- ・福祉文化社会（共生社会）を創造する方法は、ともに生きる力を育む活動＝福祉教育を進めることである。
- ・福祉教育は、子どもから高齢者まで、地域の全住民を対象とする。
- ・福祉教育には、地域を基盤としたもの、学校を中心としたもの、社会福祉に特化した専門的なものの3つの領域がある。
- ・福祉教育をきっかけとして、地域住民同士が学び合いや分かち合いでつながっていき、福祉活動の実践を通して、福祉文化の創造や地域の福祉力の向上を目指していくことが必要である。



アドバイザー講話の様子

### ●グループワーク（意見交換）の結果について

第5回地域福祉市民会議全体テーマ「福祉文化・意識を育むまちづくり」

グループNo.	個別テーマ
	グループワークでの主な意見
グループ1	地域における世代間交流を進める取り組み
	・子育て世代に関心を持ってもらうよう働きかける ・世代間交流の仕掛けづくり（小学校と地区運動会の合同開催 など）
グループ2	地域住民が町内会の活動に参加しやすい環境とは
	・強いリーダーシップを持ち、活動をコーディネートする人が必要である ・班単位の食事会など、できることから実施してみる など

グループ3	地域での福祉の学びに関する取り組み
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サロン等のイベント行事を福祉施設と協力して開催する</li> <li>・高齢者などの立場を体験学習する機会を設ける など</li> </ul>
グループ4	福祉文化の意識を育むために
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買い物代行に育成会が参加するなど、子どもを通じた地域交流を進める</li> <li>・若い世代が地域の主体として活動できる環境づくり など</li> </ul>
グループ5	差別や偏見のない社会をつくるために必要なことを考える
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供の頃から高齢者などに関われる環境づくり</li> <li>・親が行動を実践し、子どもに理解させる など</li> </ul>

●永田アドバイザーによるグループワーク講評

- ・町内会や小学校区レベルで、地域のテーブル（連絡会）を組織することが必要である。組織化を進める中で、世代間交流の促進などの効果も期待できる。
  - ・地域で暮らす全ての人々の立場を尊重し、さまざまな視点から課題を考え、福祉教育のプログラムを策定することが求められる。
  - ・福祉教育には、福祉文化の創造を目指して実践していくという視点も必要である。
  - ・実践した福祉教育プログラムは、地域のテーブルを通じて内容を振り返ってみることが必要。
  - ・福祉文化を醸成するためには、多様性を認め合える地域を目指すことが必要である。（無関心でない、排除しない）
  - ・地域に高い福祉力があり、誰もが助け合えるような関係性を構築できていることも必要。
  - ・地域に浸透しやすいキャッチコピー作りなどの取り組みも重要だと思われる。
- （例 「人が人として暮らせる社会へ」 など）



グループワークの様子



アドバイザー講評の様子